

農山漁村振興交付金(地域活性化対策) 重点指導結果

事業実施主体名: 鶴岡食文化創造都市推進協議会

令和 5年7月28日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	主たる取組メニュー名	取組概要
山形県 鶴岡市	令和元年度	活動計画策定事業	①都市と農山漁村の人々が交流するための取組 ②農山漁村で暮らす人々が引き続き住み続けるための取組

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ、農業体験ツアーの実施を中止したため、ツアーに関連する指標については実績が得られず、また情報発信回数も目標値を超えていない。移住定住促進に関する評価のみaであり、総合的評価をCとした。

2. 低調と評価された要因

【目標達成状況】

- ・農業体験ツアーによる経済効果(飲食、宿泊、観光、お土産代等): 目標値1,000万円のところ、実績値が0万円(達成率0%)
- ・観光施設等利用者増加数(農業体験ツアー参加者、延べ人数): 目標値300人のところ、実績値が0人(達成率0%)
- ・鶴岡市移住定住促進サイト(前略つるおかに住みマス)の年間アクセス数: 目標値23,100件のところ、実績値が29,078件(達成率126%)
- ・鶴岡市への移住に興味がある人数(参加者アンケートより): 目標値20人のところ、実績値0人(達成率0%)

【評価指標の達成状況】

- ・ツアー経済効果(ツアー参加者数): 目標値200人のところ、実績値0人(達成率0%)
- ・観光施設利用者増加数(訪問施設(観光・商業)数): 目標値300件のところ、実績値0件(達成率0%)
- ・移住定住促進サイト(情報発信回数): 目標値50回のところ、実績値37回(達成率74%)
- ・移住に興味がある人(継続的交流希望者数): 目標値80人のところ、実績値0人(達成率0%)

いずれも新型コロナウイルス感染症の拡大により、農業体験ツアーが実施できなかったことにより、販売や施設利用者数等が減少したものである。

3. 目標達成に向けた方策

【代替策】

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大状況を踏まえ「農作業体験ツアー」「たびコト塾」の実施については当面の間は休止。旅行者・農業関係者の両者において事業実施ニーズが高まった際に、社会情勢等を踏まえて再開を検討。
- ・他方、本交付金事業を契機に創出された、(株)阪急交通社との連携によるEC販売の取組については、取組内容を拡大し、関係人口創出及び本市農産物のPRに繋げていく方針。具体的には、ECサイトでの取扱品目の充実と通期での鶴岡産品の掲載に向けて、参画事業者の掘り起こしや購買者へのPR強化を実施。

【協議会の事業実施体制】(組織、団体、個人の新たな動きなど)

- ・(株)阪急交通社の知識やノウハウを活かした農山漁村活性化を図るため、食文化創造都市推進協議会の人員強化を行う方針。

4. 改善状況

新型コロナウイルスの影響で当初計画した農業体験ツアーが実施できなかったため、鶴岡伝統菓子を題材とした鶴岡の食と食文化を体験・体感するツアーを株式会社阪急交通社と協力して実施している。

その結果、低調と評価された要因である目標値の達成状況は以下のとおりとなっている。

- ・ ツアーによる経済効果: 目標値1,000万円のところ、実績値415万円(達成率42%) (前年度実績0万円(0%))
- ・ 観光施設等利用者増加数: 目標値300人のところ、実績値800人(達成率267%) (前年度実績0人(0%))
- ・ 移住に興味がある人数: 目標値20人のところ、実績値11人(達成率55%) (前年度実績0人(0%)) ただし、農業体験ツアーの代替ツアーであるため、アンケート項目は参考として、鶴岡を再訪したい人の数を計上している。

観光施設等の利用者増加数は目標値を達成し、その他の目標値も改善が認められる。

農山漁村振興交付金(地域活性化対策) 重点指導結果

事業実施主体名: 福栄活性化助け合い協議会

令和5年7月28日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	主たる取組メニュー名	取組概要
山形県 鶴岡市	令和元年度	(1)活動計画策定事業 (2)人材活用事業	③農山漁村で暮らす人々が引き続き住み続けるための取組 スマート定住条件強化型(③の取組として実施。平成31年度開始のみ)

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

・取組状況及び実施体制は概ね成果が上がっているが、事業実績で交流人口が目標を大きく下回っており、総合評価をCとした。
 ・事業実績について、繭の生産量を「売上げ」、交流人口を「交流人口」として捉え、サテライトショップの数を「雇用」、SNS投稿数を「その他」として換算した。実証活動として6つのプロジェクトを行っているが、交流人口及びサテライトショップ数、SNS投稿数が目標を下回り、実績が上がっていないと判断される。コロナ禍においても実施可能な事業のより一層の進展を期待したい。

2. 低調と評価された要因

【目標達成状況】

- ・繭生産量: 目標値75kgのところ、実績値83.8kg(達成率116%)
- ・交流人口: 目標値16,160人のところ、実績値3,890人(達成率24%)
- ・サテライトショップ数: 目標値1店舗のところ、実績値0店舗(達成率0%)
- ・交通に関する住民満足度: 目標値80%のところ、実績値58%(達成率72%)
- ・巡回型健康体操&健康相談の実施数: 目標値14回のところ、実績値19回(達成率136%)
- ・教育環境に関する満足度: 目標値60%のところ、実績値94%(達成率156%)
- ・SNSの投稿数: 目標値60回/年のところ、実績値9回/年(達成率15%)

【評価指標の達成状況】

- ・繭生産量(蚕の飼育頭数): 目標値75,000頭のところ、実績値50,000頭(達成率67%)
- ・交流人口(民泊施設の利用者数): 目標値120人のところ、実績値無し(達成率0%)
- ・交流人口(楯山荘の利用者数): 目標値1,400人のところ、実績値324人(達成率23%)
- ・サテライトショップ数(取扱品目数): 目標値50万品目のところ、0品目(達成率0%)
- ・サテライトショップ数(販売農家数): 目標値14戸のところ、実績値0戸(達成率0%)
- ・交通に関する住民満足度(交通機関の延べ利用者数): 目標値5,500人のところ、実績値2,024人(達成率37%)
- ・巡回型健康体操&健康相談の実施数(延べ健康相談者数): 目標値70人のところ、実績値152人(達成率217%)
- ・教育環境に関する満足度(サテライト学習利用率): 目標値70%(16人)のところ、実績値66.66%(4人)(達成率95%)

3. 目標達成に向けた方策

○民泊交流プロジェクト

令和3年度はコロナ禍により行動制限があったため、地域内観光施設や飲食店の利用者が減少したほか、DIY体験などの交流イベントは実施できず、交流人口の数値は目標を大きく下回ったが、今年度は新型コロナウイルス感染症の対策をとったうえで、関川地区のしな織まつりや、越沢地区のそばに関するイベントを実施する。

また、協議会の構成メンバーである「木野俣いきいき隊」が交流人口拡大を目的に、令和3年3月に閉園となった旧福栄保育園を活用して食堂「よれっちゃ福栄」を8月27日にオープンし、地元食材を活用した郷土料理を提供するほか、漬物やしそ巻き、米などの地元特産品の販売やあつまかぶの収穫・漬け込み体験を実施する。

これらの取組みにより、今後、交流人口の増加を期待している。

また、コロナ禍において修学旅行を近場でおこなう学校が増えており、連携するNPO法人である「自然体験温海コーディネット」による教育旅行の受け入れ数も増加している。

SNS投稿については、福栄地区関係者・関係団体(例;越沢地区の「越沢夢倶楽部」、関川地区でしな織やしなの花の商品展開に携わる「羽越のデザイン」と「umu」、元地域おこし協力隊員の活動である「ぼんどりや」、先に記した「よれっちゃ福栄」など)と連携し、フォロワーの拡大を図り、より幅広く情報発信を行う。上記のしな織まつりや越沢新そばまつりなどのイベント、よれっちゃ福栄などの地域の魅力の発信が増えることが期待される。

○買い物支援プロジェクト

サテライトショップは地元商店の協力を得ることができず開店には至らなかったが、中山間地域の買物に不自由な高齢者を支援する目的で、生協の移動販売車の運行を誘致し、買物機会の維持に寄与している。

また、福祉施設の送迎バスの空き時間を利用した買物ツアーバスがあり、地元からの要望で運行している。

4. 改善状況

事業期間が終了しているため、6つのプロジェクトについては、自主財源や鶴岡市の補助金を使って取組可能な範囲で継続されている。

併せて、上記方策に取り組んだ結果、昨年度の評価委員会において低調とされた要因である目標の達成状況は、以下のとおりとなっている。

- ・ 交流人口: 目標値16,160人のところ、実績値10,872人(達成率67%) (前年実績3,890人(達成率24%))
- ・ サテライトショップ数: 目標値1店舗のところ、実績値0店舗(達成率0%) (前年度実績0店舗(達成率0%))
- ・ SNSの投稿数: 目標値60回/年のところ、実績値64回/年(達成率107%) (前年度実績値 9回/年(達成率15%))

なお、サテライトショップの開設に替え、生協の移動販売車が週3回巡回しており、地域の買い物需要には応えられていると考えられる。

このように、SNSの投稿数に関しては目標値を達成し、サテライトショップ数についても数値的には未達でも地域の要望を満たしていると考えられる。また、交流人口に関しては、新型コロナウイルスの影響も少なくなり、今後さらなる伸びが期待できる。

農山漁村振興交付金(農泊推進対策) 重点指導結果

事業実施主体名:いまべつ町荒馬の里づくり協議会

令和5年5月31日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農泊推進事業・人材活用事業)	取組概要(施設整備事業(活性化整備計画に基づかない))
青森県 今別町	3年度	地域が大切にしている伝統芸能「荒馬(あらま)まつり」を中核に、『多様な関係人口と取り組む、持続可能な農山漁村振興の新しいカタチ』の創出	—

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

令和3年度はコロナ禍の影響で、なかなか実績が上げられない状況だったように思えるが、代替イベントの開催や情報発信は実施されている。令和4年度は新型コロナウイルス感染症対策を強化するとともに、令和3年度の実績を活用し、確実に売上高の実績に現れる取組となるよう十分に検討されたい。
また、これらの取組を実施する上で、新法人を中心とした事業実施体制の強化を図られたい。

2. 低調と評価された要因

コロナ禍の影響及び施設整備計画の廃止により、なかなか実績が上げられない状況に思える。地区内外へのウェブや紙ベースでの情報発信を行っており、次年度以降に向けた準備が進んだことは評価できるが、事業実績の売上高の達成率が50%未満となっていることから低調と判断される。

3. 目標達成に向けた方策

令和4年8月に法人化した新たな団体を中核法人として事業の継続性確保及び事業実施体制の強化を図った。同法人にて町有宿泊施設の管理を受託し同施設等でのイベントや各種イベントでの宿泊者誘致等を実施。また、商品開発及び協力事業者商品の販売委託等で売上確保策とした。オンライン活用、新型コロナウイルス感染症対策を講じることで、中止ではなく新しい形での実施に結びつけた。

4. 改善状況

新たな中核法人を中心として、新型コロナウイルス感染症の状況を勘案し、感染症対策を講じながら町内イベントや体験プログラム等を実施することにより、事業実績が改善され、売上高及び延べ宿泊者数の目標値を達成した。

【事業実績】

- ・売上高:(目標値)106万円、(実績値)110万円、(達成率)104%
- ・延べ宿泊者数:(目標値)200人泊、(実績値)246人泊、(達成率)123%

農山漁村振興交付金(農泊推進対策) 重点指導結果

事業実施主体名:能代白神農泊推進協議会

令和5年5月18日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農泊推進事業・人材活用事業)	取組概要(施設整備事業(活性化整備計画に基づかない))
秋田県 能代市	3年度	地域資源である自然環境や農業空間を、対企業や一般利用者向けのビジネスとして展開する	—

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

令和3年度はコロナ禍の影響で、なかなか実績が上げられない状況だったように思えるが、農泊コンテンツの造成に向けた取組、受入体制の整備はおおむね実施されている。令和4年度は新型コロナウイルス感染症対策を強化するとともに、令和3年度の取組の成果を活用し、確実に宿泊実績に現れる取組となるよう十分に検討されたい。
また、これらの取組を実施する上で必要な事業実施体制の強化を図られたい。

2. 低調と評価された要因

協議会構成員に4軒の宿が所属しているが、プログラム参加での宿泊実績が目標になっているため、達成率は低調である。コロナ禍で体験プログラムは作れたが、実行できなかった状況は理解できるが、宿泊実績の達成率から低調と判断される。

3. 目標達成に向けた方策

長期滞在の観光客を誘引するようなコンテンツの造成を行う。また、造成した農泊コンテンツを活用し、農泊イベントを実施する。農泊イベントの実施に当たっては、構築された体制で連携し、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し実施する。

4. 改善状況

本事業にて、「食事メニュー数」及び「体験プログラム数」について計画を上回る数を造成し、農泊イベント等により実際に実施することにより、事業実績が改善され、売上高及び延べ宿泊者数の目標値を達成した。

【事業実績】

- ・売上高:(目標値)1,705万円、(実績値)2,050万円、(達成率)120%
- ・延べ宿泊者数:(目標値)2,007人泊、(実績値)2,310人泊、(達成率)115%